



横浜市立相沢小学校 11月号 R5.10.31

学校だより

学校教育目標

学びあい 認めあい 支えあい 夢をはぐくむ あいざわっこ



「褒められる体験」と「許される体験」

副校長 須山 健太郎

空が澄み清々しい秋を感じる頃となりました。今月は6年生の劇団四季の観劇や4年生の瀬谷区

音楽会、3年生の図書館見学など、芸術や読書の秋のきっかけになる行事が盛りだくさんです。

さて、今年度のスポーツフェスティバルは、団体競技も復活し昨年度までとは違った形での開催となりました。夏休み明けの35℃を超える残暑のため、練習開始時期を当初の予定より3週間ほど遅らせてスタートしましたが、当日は気候も良く、子どもたちは無事に演技や競技をすることができました。PTAの役員や委員の皆様をはじめ、保護者の方々には事前の準備や終了後の片付けなど多大なご協力をいただきまして、本当に感謝しております。

スポーツフェスティバルの練習や準備の中で、職員は褒めることのみでなく、ありのままの自分を認め、許すような声掛けをしてきました。それは、子どもたちは褒められるようなことでしか安心できず、失敗を過度に恐れたり、期待に応えられない自分を拒否したりする姿が見られるからです。スポーツフェスティバルの練習や準備では、思い描く自分の姿と、現実の自分の姿が異なる場面が普段より多くありました。実際の自分の姿を認め、そのうえでありのままの姿を受け入れられる子どもの育成を目指しています。

褒められて認められる体験に加え、失敗したり挫折したりしたときに「大丈夫だよ」「それでもいいんだよ」と許され認められる経験をすることがとても大切です。ご家庭でも、失敗してしまった姿やありのままの自分を認められ許されるようなお声掛けをお願いいたします。

現実をみせられ落ち込む  私な自分を受け入れる

